



手塚 かおりさん
(下延生)

日々の生活の中で

高校生の娘が病院を受診した時のことです。受付の方が「芳賀町はすごいですね。高校生も医療費が保障されているんですね。」ととても驚かれていました。子育て中、あたりまえに利用していた医療費無償制度でしたが改めて、芳賀町の子育て支援のありがたさに気づきました。これから今の子どもたちが子育て世代になった時も、安心安全に子育てができる町であってほしいです。芳賀町は子育ての面からみてもとても住みやすい町です。これからも町民が暮らしやすい町を目指してください。私も町民として協力していきたいと思います。



田中 周さん
(下高根沢)

子育て・教育の町・芳賀町に

芳賀町に引っ越して5年が経ちました。以前住んでいた所は公共施設内に託児スペースが併設されていたり、医療面においても子どもの医療受給券があれば受診することができましたが、芳賀町は後日手続きをし返金されるという制度が一昨年まで続いていました。これらのことから他市町より遅れていると感じていました。

近年、子育てに悩み自分の子に手をかけてしまう、または適切な養育を行わない等の虐待が増え続けています。芳賀町には工業団地もあり、核家族世帯も多く、最近ではひとり親世帯も増えてきているように感じています。

子育て支援センターにおけるサポートの強化や、児童家庭支援センター等を配置する等、町の子育て支援を一層強化していただきたいと思います。



古谷龍太郎さん
(東高橋)

SARS-CoV-2 (コロナ禍)における農業人

国内の大手メディアでは感染者の動向と自粛要請の影響で買い手が無く余った食糧の動向が報道されがちですが、世界では長期化を想定した食糧の輸出制限・国際市場からの買い占め・備蓄食糧の補強が同時進行で行われています。

私はこうした状況と昨年度の1年間を北海道にて過ごし医療現場に近い位置から感染拡大を途中まで見届けた経験から、今年度からの就農について「何という時期に戻ってきてしまったのだろう。」と思った次第です。他にも各国の出入国制限により西欧や米国同様に農業労働力の確保困難が報道され、コロナ禍に限らずTPP11・日欧EPA・日米FTA等の各種条約まで待ち受けています。

前途多難な状況ですが「生涯学習」、「創造力」、「他職種からの農業求職者増加の報道」を糧に先の問題に対処し、農業を含め芳賀町全体での躍進を願います。